

介護や子育てでキャリアを断念せざるをえないという話をいくつも周囲で見聞きする。まだ何年も現役で働ける女性が母親の介護のために仕事を早期退職するケース、子育てとキャリアの選択に悩んでキャリアを断念する女性、あるいは子供を生むことをあきらめる家族など、読者の皆さんの周りにもたくさんいるはずだ。

伊藤元重の

ニュースな見方



一番つらいことだが、日本経済にとってもその損失は計り知れない。

台湾で、田舎にある友人の実家に行ったら、90歳近い友人の母のそばに東南アジアの女性が付き添っていた。かなりの田舎だったに

も関わらず、外国人が家庭に入って家事や介護の支援

をしているという台湾の現状が、私には驚きであった。その助けがあるので、友人の姉は他のことにより多くの時間がさげると言っていた。

香港やシンガポールで、えが返ってきた。

他の東南アジアの国から来た家政婦がフル活用されて

いるのは知っていたが、台湾でもそうした光景をしばしば見かける。別の台湾の友人の自宅にも、そうした

介護・育児女性の助けに

に、もし子育て支援となるなら、そして少子と

た家政婦さんがいた。そこで聞いてみると、「高齢者が同居している家庭、あるいは子供が3人以上いる家庭では東南アジアの人を雇

用しているという台湾の現状が、私には驚きであった。その助けがあるので、友人の姉は他のことにより多くの時間がさげると言っていた。

外国人労働者の活用

でも、こうした制度の導入は大きい。

また、3人以上の子供が

だった。香港よりは高

いる家庭に、そうした外国人の家事支援を利用する権

利を与えるという考え方も面白い。3人目の子供を作

る家庭にはある種の特権になるわけだが、政府は一銭もお金を使わない。言う人がいる。しかし、多くの人が介護や子育てと

に、もし子育て支援となるなら、そして少子と

化が進んでいく中で在宅の化対策に少しでも効果がある政策であれば、検討に値す

る。協定を強化して、これらの国から条件付きでもつと人材を活用できるように

*この記事は日本経済新聞社の許諾を得て転載しています。